

研究課題	学校・地域・家庭が一体となった教育活動の創造
副題	～コミュニティ・スクールの取り組みを全国へ情報発信～
キーワード	コミュニティ・スクール オンライン学習 情報発信
学校/団体名	公立三木町立白山小学校
所在地	〒761-0704 香川県木田郡三木町下高岡 352-1
ホームページ	<a href="http://www.hakuzansyo.com/">http://www.hakuzansyo.com/</a>

### 1. 研究の背景

本校は13年前より学校運営協議会を設置した「コミュニティ・スクール」として、学校・地域・家庭が一体となった教育活動を行っている。香川県下では先進的な取り組みをしており、保護者や地域の方々が「スクールサポーター(はくざんっ子サポーター)」として児童の学習や活動を応援する取り組みが充実している。また、地域(人・もの・こと)から学ぶ学習を通して、地域を大切にすることを育てている。令和4年度には、香川県教育委員会生涯学習・文化財課主催の研修会で、本校の先進的な取り組みを全体報告した。

本校の所在する三木町は、カナダ国ディズベリー町、北海道七飯町と姉妹都市の協定を結んでおり、互いに児童・生徒が隔年で訪問する交流を行ってきた。コロナ禍になり、直接の交流ができなくなってからは、オンラインでの交流を継続してきた。令和4年度からは三木町の国際交流員の企画により、台湾の小学校との交流が始まった。

### 2. 研究の目的

白山小学校が13年前より進めてきたコミュニティ・スクールの取り組みを香川県・全国に情報発信し、紹介するとともに、新たな取り組みを充実させる。香川県下ではコミュニティ・スクールの先進的な取り組みを積極的に情報発信することにより、文部科学省が進めている学校と地域との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」のモデル校としての役割を担う。

白山(はくざん)校区のよさ、三木町の魅力を地域・香川県・世界に発信する活動を行ったり、三木町内4小学校でオンライン交流しながら学習を進めたりすることにより、児童の情報活用能力・情報発信力を高める。

白山小学校コミュニティ・スクールの大きなねらい1つである「スクールサポーター」の教育活動への協力について、行政機関・社会教育施設・各種団体(観光協会)を取り込み、ネットワークを広げる。その際、オンラインによる交流やオンラインによる共同授業の機器操作をサポートできる人材についても依頼する。

### 3. 研究の経過

(1) 先進的なコミュニティ・スクールの取り組みを香川県・全国に情報発信する。

- ①学校HPでコミュニティ・スクールの理念や推進状況を公開する。
- ②学校ブログでの具体的な取り組みを紹介する。
- ③オンライン研修会を開催しての積極的な情報発信をする。
- ④研究会での積極的な情報提供、学校視察の受け入れを行う。

(2) 県内外、国内外の学校や教育施設とオンラインで交流し、児童の社会的な視野を広げる。

- ① 三木町が姉妹都市協定を結んでいるカナダディズベリー町、北海道七飯町の小学校とのオンラインによる交流を学年ごとに定期的に行う。
- ② 4年度に始まった台湾の小学校との交流を4年生「はくざんっ子学習(総合)」のテーマ「国際理解」の中で、日本文化を伝えること、外国の文化を知ることの主活動とする。また、外国語活動で学んだことを発表する場とする。
- ③ 5年生「英語科」において、台湾の小学生と交流する。
- ④ 三木町のキラリを見つけよう」、6年生「三木町の偉人から生き方を学ぼう」で発表資料(動画)をまとめる。

#### 4. 代表的な実践

##### (1) 3年生の実践

###### ①「三木町のキラリ・はくざんのキラリを見つけよう」

3年生は、総合的な学習の時間(はくざんっ子)で、「はくざんのキラリを見つけよう!」をテーマに校区の良さや魅力を発見する活動をしている。校区の地場産業である「パック三樹」「藤井製麺」「大三機工」「谷川木工芸」を訪問し、それぞれの会社の方から特色ある仕事についてお聞きし、製造工程などを見学した。自分たちの校区には、いろいろな産業があり、さまざまな「キラリ」があることを再確認する地域探検になった。



大三機工



藤井製麺



パック三樹

###### ② 北海道七飯町大中山小学校との交流学習

3年生は2月26日に三木町と姉妹町である北海道七飯町の大中山小学校の子どもたちとオンラインで交流し、北海道の学校生活の様子や七尾町のおいしいものを教えてもらった。白山小学校からも学校の様子やコミュニティ・スクールでの地域の方との取り組み、三木町の自然や文化など、はくざんっ子学習で見つけた「はくざんのキラリ」を紹介した。質問コーナーでは、いろいろな学校生活や生活環境の違いを知り、驚いたり歓声をあげたりしていた。子どもたちは、交流学習を通じてお互いの地域の良さを知ることができた。最後は2年後の直接交流での再会を約束し、オンライン交流を終えた。





## (2)4年生の実践

### ①台湾義守大学の学生さんとの交流(国際理解)

4年生のはくざんっ子学習(総合的な学習の時間)は、国際理解をテーマに学習を進めてきた。6月5日(月)、「台湾の文化を学ぼう」ということで、台湾義守大学の日本語学科の学生さんとオンライン交流をした。台湾の学生さんから、台湾の食文化や伝統的な行事「中秋節」や「台湾の夜市」について紹介してもらった。また、お互いの国の文化や好きな食べ物、遊びなどについて質問したり、答えたりして交流した。子どもたちは、オンライン交流で学生さんたちから直接お話を聞き、台湾の魅力を知る貴重な時間になった。台湾の学生さんにとっても日本語の勉強(子どもにも分かる日本語表現)ができてよかったという感想だった。



### ②台湾義守大学の学生さんとの交流(情報発信)

11月21日(火)、6校時の4年生の「はくざんっ子学習」の時間に、台湾義守大学とオンラインによる2回目の交流会を行った。前は、台湾の文化や生活について教えてもらう学習が中心だったが、今回は、国語の時間に調べた「日本と外国の文化の違い」について調べたことをもとに、日本の文化について知ってもらう時間となった。子どもたちが知っている代表的な日本の文化や、香川県のこと、三木町のこと、子どもたちの生活、白山小学校の自慢について発表した。台湾の学生さんから子どもたちへの質問タイムがあった。台湾の学生さんからは、子どもたちが質問に答えるごとに歓声が聞こえてきた。



### (3)5年生の実践

12月21日(木)、5年生が「英語」の授業の発展として、台湾のお友だちとオンラインで交流しながらの「英語学習」をした。交流先は、三木町国際交流委員の先生の知り合いがいる台湾の「泰安小学校」という学校だった。5年生になって英語の授業で学習したことを使って、質問したり、質問に答えたりした。「What can you see in Taiwan?」「What can you eat in Taiwan?」「What do you want to know about Japan?」などの表現を使って交流した。白山小の子どもたちは、日本語は話せるけど中国語は話せない、台湾の子どもたちは、中国語は話せるけど日本語は話せない。必然的にどちらも少しだけ話すことのできる「英語」が共通言語となるので、相手意識をもって「英語を話す」、「英語を聞く」という体験ができた。英語のスピーチだけで伝わらない場合は「ホワイトボード」での筆談(英語)やタブレットで画像を提示したり、ジェスチャーをまじえて交流したりした。英語でコミュニケーションをとれることを実感できた交流(垣根を低くして)になったのではないかと思った。また、スピーチ、リスニングのどちらも大切であることも感じることができた。



### (4)全校での実践(コミュニティ・スクール行事の情報発信)

白山小では1年間を通して様々なコミュニティ・スクール関連行事を行っている。地域に開かれた学校として本校ではできるだけ学校で行っている行事や活動について情報発信し、地域の方や保護者と共有することができるようにしてきたが、今年度は、助成金を活用し、オンライン環境の整備や体育館への機器の整備を行うことができ、コミュニティ・スクール行事の積極的な情報発信に取り組むことができた。

#### ①ようこそSENPAI

白山小学校では、コミュニティ・スクール「わくわく学習部会」の活動として、白山小を卒業して社会で活躍している方を講師にお招きし、お話を聞く「ようこそSENPAI」を行っている。10月10日に、サクソフォン奏者の白井奈緒美さんが、母校である白山小学校に帰ってきて、演奏会およびこられました。ミッキーマウスマーチの曲で拍手の中入場され、講演ではサクソフォン奏者になった経緯を通じてあきらめないで努力することや、「得意なことをのぼしてほしい。」と励ましのお話があった。その後、子どもたちも知っている「新時代」「オトナブルー」「アイドル」アンコールでは、「ルパン三世のテーマ」を演奏してくれた。また、3年生以上の子どもたちはリコーダーで、1・2年生は歌で「またあそぼ」のセッションをして、校歌も一緒に歌った。質問タイムでは、たくさんの質問に答えていただいた。子どもたちは、生演奏を聴いたり、セッションしたりと楽しい時間を過ごす貴重な体験をすることができた。

保護者や地域の方から、ぜひ、この催しに参加したいとの要望があったが、人数制限があったため、オンライン配信をすることにした。たくさんの保護者や地域の方がZOOMIによる視聴で参加して

くれた。



## ②ありがとう集会

白山小学校では、お世話になっているサポーターの方々をお招きして感謝の気持ちを伝えるありがとう集会を例年行っている。今年は、4年ぶりに体育館で行うことができ、80名のサポーターの方々が参加してくれた。スライドでは、サポーターの皆さんと活動した1年間の楽しい思い出を振り返った。子どもたちは、サポーターさんたちへの感謝の気持ちを改めて確認し、お世話になった方々にお礼の言葉を伝えて、プレゼントを贈呈しました。最後に歌のプレゼント「ふるさとのいろ」を心を込めて歌いました。サポーターさんの代表の方々からは、これからも子どもたちのためにサポートしていきたいと心強いお言葉をいただいた。

この「ありがとう集会」の様子もオンラインによる情報発信をするとともに、期間限定で動画サイト(YouTube)によるオンデマンド配信を行った。



## ③CO2CO2 運動(学校 CO2CO2 削減コンテストin香川)

白山小学校では、数年前から全校の取り組みとして「CO2CO2 運動」に取り組んでおり、コミュニティ・スクール活動の一環として、家庭や地域を巻き込んだ活動に広げている。今年度も、この活動の成果を報告する場所として、毎年「香川県地球温暖化防止活動推進センター(せとecoかがわ)」が主催するコンテストに応募した。児童運営委員会とピカピカ委員会が中心になり、地域にも声をかけてアルミ缶や牛乳パックを集める取り組みが認められ、昨年度に引き続き2年連続で「最優秀賞」を受賞した。



この「CO2CO2 運動」の様子についても、学校HPや学校ブログで随時紹介している他、子どもたちから協力を呼びかける動画を配信している。また、「せとecoかがわ」の取材した動画の視聴を保護者や地域の方に呼びかけてきた。

## 5. 研究の成果

### (1) 積極的な情報発信

コミュニティ・スクールとしての先進的な取り組みをオンライン研修会で発信することで、県内他郡市からの問い合わせや視察依頼が増加してきている。香川県下にはこれから本格的にコミュニティ・スクールの取り組みを進めようとしている自治体も多く、香川県の推進モデル校としての役割を務めてきた。

#### ①高松市校長会での報告

白山小学校が所在する香川県三木町は県庁所在地「高松市」に近接する。高松市では昨年度より「学校運営協議会」が発足し、本年度より本格的にコミュニティ・スクールの取り組みを進めている。13年前よりコミュニティ・スクールとして活動してきた本校の取り組みを参考にしたいとの依頼があり、高松市小学校校長研修会において報告会を行った。



#### ②香川県東かがわ市教育委員会の学校訪問

11月24日に東かがわ市の教育委員会の教育長さんをはじめとした方々が本校のコミュニティ・スクールの取り組みの視察に来られた。学校運営協議会長さんのご挨拶のあと、校長が本校の取り組みのプレゼンテーションを行った。わくわく学習部会、にこにこ生活部会、すくすく健康部会の「三部会」の活動について紹介した。コミュニティ・スクールの取り組みを進めてきて、よかったことを強調してお話した。今後の課題やこれからの展望についても話し、最後に東かがわ市教育長様からご挨拶をいただいた。



#### ③学校HP・ブログ等での情報発信

今年度は、白山小学校のコミュニティ・スクールの取り組みを外部の教育機関や研究団体、三木町内の関係機関を通して積極的に情報発信してきた。それに合わせて、学校HPや学校ブログによる情報発信も積極的に行ってきた。6月14日(水)のブログ「昨日の白山小ブログの訪問者数が初めて1000を超え、(1080IP)となりました。全校生が265名、世帯数が200戸弱なので、世帯数のおよそ5倍の人が見てくれたこととなります。保護者のみなさん以外には、どこのどなたかが見てくれたかは分かりませんが、本ブログへのたくさんの訪問、閲覧ありがとうございます。これからもよろ

しく願います。」という記事からも分かるように、保護者以外の方からの訪問者もとても多くなり、本校のコミュニティ・スクールの取り組みについて関心をもって閲覧してくれている方がたくさんいることを感じた1年間だった。

## 6. 今後の課題・展望

2年後の令和8年度に白山小学校を含む三木町内の小中学校5校で、四国地区放送教育研究大会が開かれる予定である。「NHKforSCHOOL」を活用した授業研究の他に「メディア活用」を主眼とした研究内容を深め、研究授業や実践提案を行う予定である。

3月11日(月)、本校と三木町内平井小学校とをオンラインでつないだ合同授業を行った。回線の問題やハード面の諸条件がクリアできれば、年度当初予定していた三木町小学校4校での合同授業に発展させていきたいと考えている。また、小中学校が連携した取り組みや実践交流についても考えていきたい。小中の教員間での、ロイロノートの活用、児童生徒のリテラシーの共有、情報モラル教育の系統性などの研究にも取り組みたいと考えている。



コミュニティ・スクールの取り組みについては、あらゆる機会、あらゆる方法で、今後も積極的な情報発信に努め、好事例のモデルとして広げていきたいと考えている。今年度、パナソニック教育財団の助成校を紹介するHPを見て、本校の取り組みを知り、コミュニティ・スクールの取り組みに関する問い合わせが増えてきた。来年度には山形県天童市の教育委員会が本校を視察に来ることが決定している。今後も問い合わせや依頼があれば、積極的に引き受けていく予定である。

## 7. おわりに

GIGA スクール構想によって一人1台端末(タブレット等)が学校に導入されてから5年後となる令和8年に放送教育研究会を本校で開くことに大きな意義を感じている。今年度、パナソニック教育財団の助成によって、様々な新しいことに挑戦できたこと、研修会や研究会にも積極的に参加し先進事例を知ることもできたことにより、令和8年に向けての展望が開けた。本校は長年に渡って取り組んできたコミュニティ・スクールの取り組みについても、この1年間にますます深めることができたと感じている。

## 8. 参考文献

○GIGA スクール構想の今とこれから ～新しい時代の教育SHIFTに向けて～

文部科学省 初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトリーダー 武藤久慶氏

○令和4年度香川県小学校教育研究会メディア教育部会研究発表会 研究要項

高松市立林小学校